

対策のシナリオ

1 対策の考え方

汚染対策は、PCB 廃棄物の処理体制が整っていない現状にかんがみ、当面 Step2 までの完了（シナリオ3）を目指すものとする。（第3回技術検討専門委員会における審議結果）

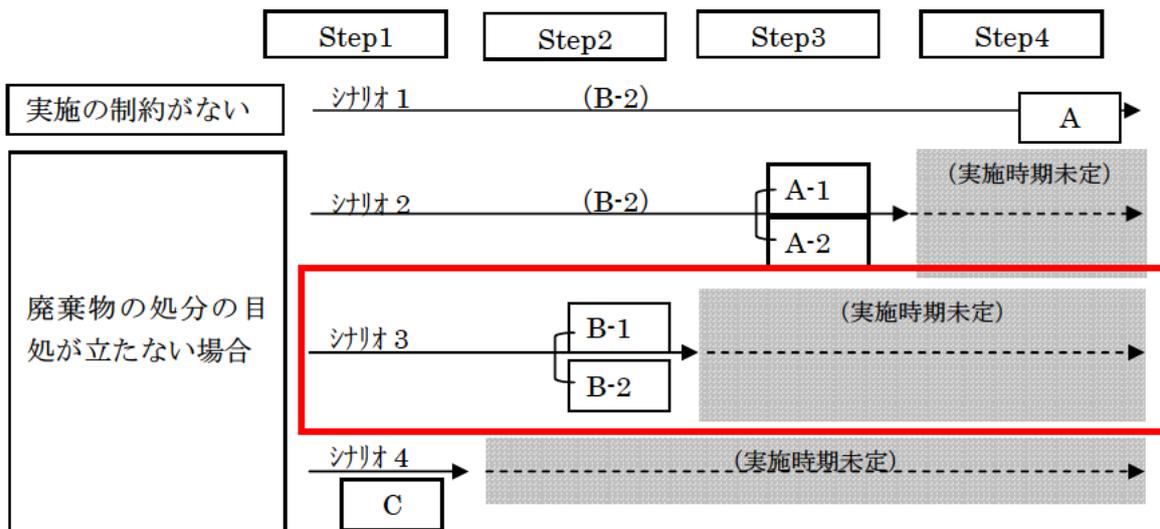
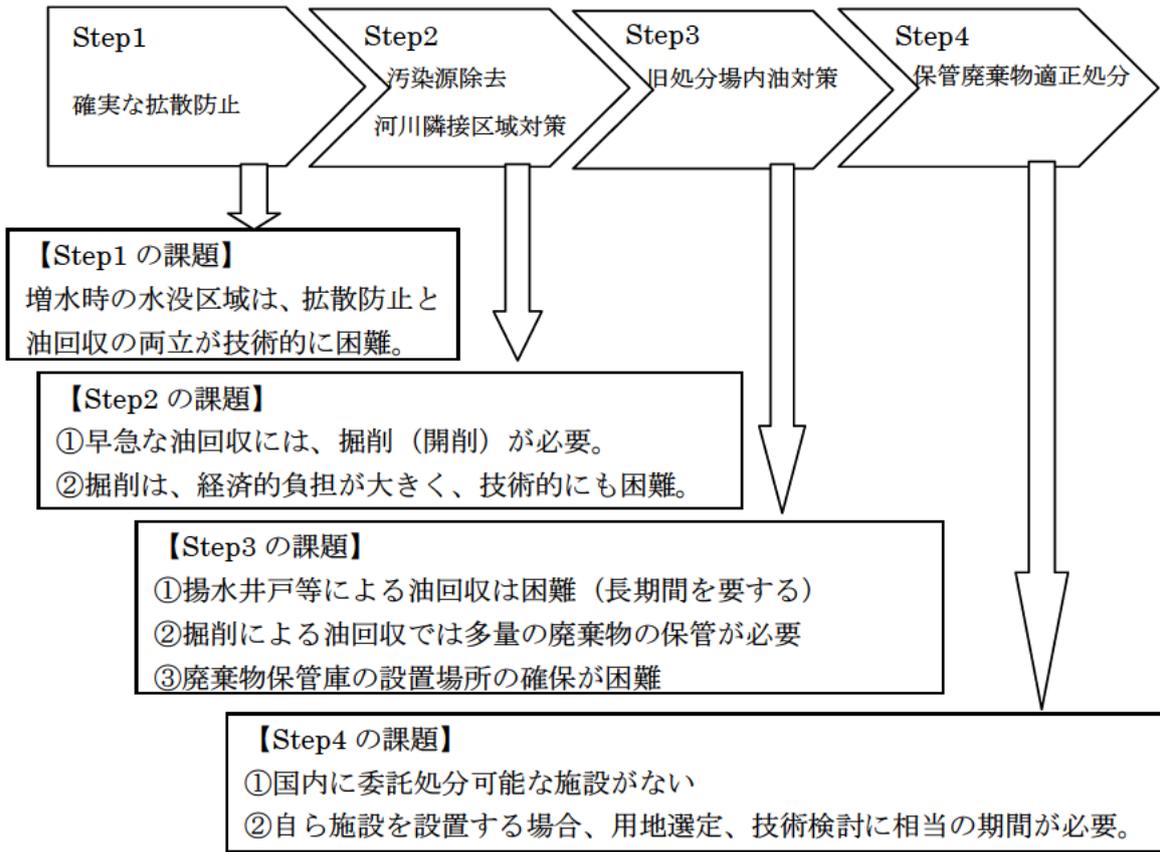


図-1 対策のシナリオ

2 対策の進め方

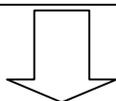
2. 1 油分の移動および拡散の確実な防止 (Step 1)

旧処分場内の地下水面上の油相域を囲い込むことにより、油分を滞留させ、旧処分場外への油分の移動を防止する。

また併せて、既に河川敷に拡散した PCB を含む油分に対し、非汚染区域への汚染拡散防止のため、非汚染区域との境界に「囲い込み工 (汚染拡散防止)」を設置する他、Step 2 の対策を円滑に実施するため、対策区域を区画する「囲い込み工 (中仕切工)」を設置し、対策区域間の PCB を含む油分の移動を防止するものである。

(目標とする状態)

PCB を含む油分の移動・拡散が防止される。



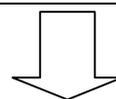
2. 2 PCB 汚染源除去 (Step2)

掘削調査の結果、汚染源の一つとみられるコンデンサ素子が確認された。

このため、Step2 では当該汚染源域からの PCB 汚染拡大を防止するため、コンデンサ素子等の投棄物の他、投棄物により汚染された高濃度汚染土壌及び廃棄物の除去を行う。

(目標とする状態)

汚染源域からの新たな PCB 流出の懸念がなくなる。



2. 3 河川隣接区域対策 (Step2)

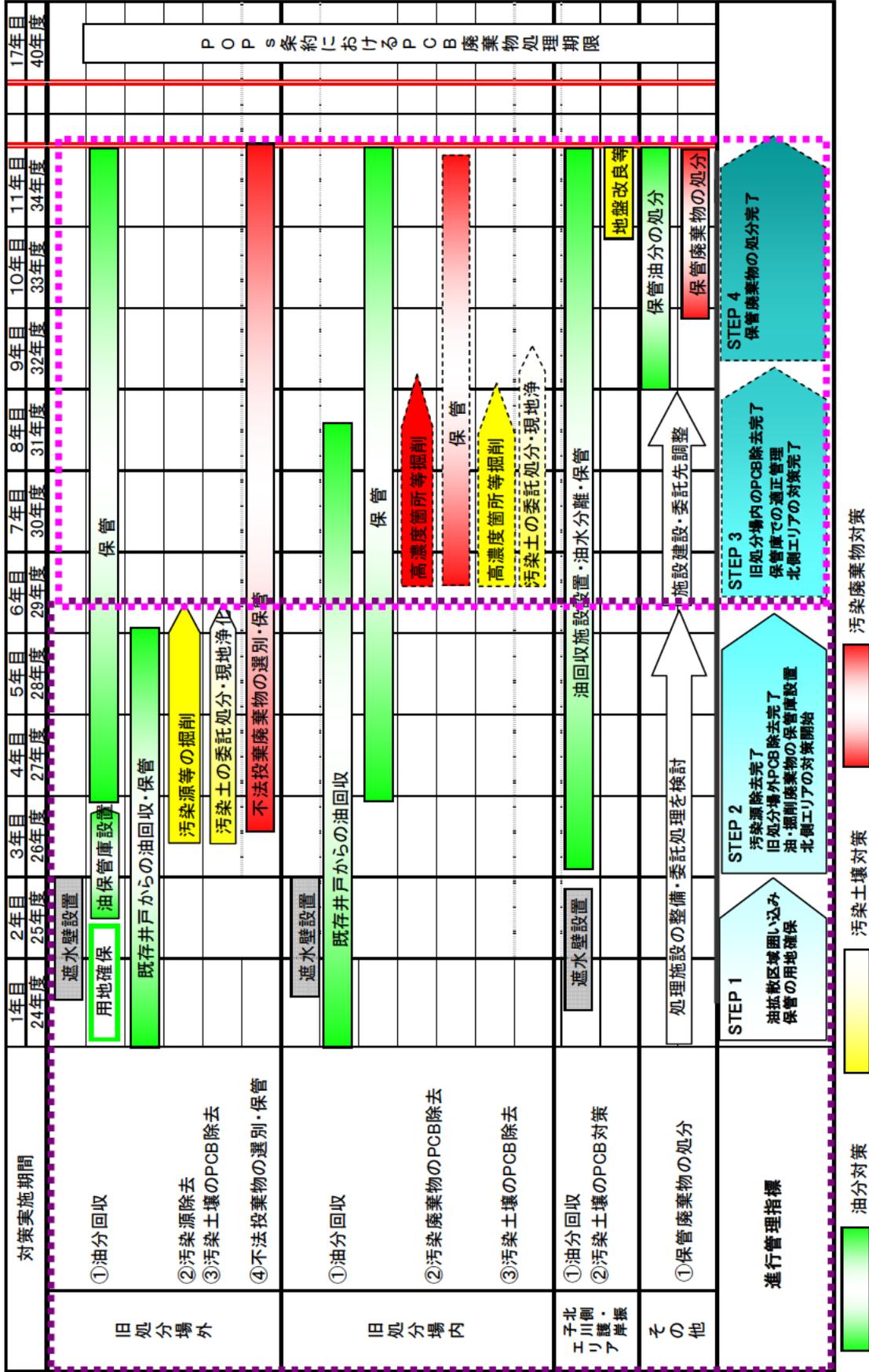
低水護岸部では、囲い込み工による汚染拡散防止対策により、油分の移動・拡散の防止措置が図られたとしても、出水時の河川水位上昇による冠水により、地表面から汚染が拡散するおそれがある。

このため、Step2 では、当該区域内の油分除去等の追加措置も行う。

(目標とする状態)

冠水時においても、河川への PCB 流出の懸念がなくなる。

表-1 源十郎新田事業に係る環境修復シナリオ



※進行管理指標に示している各STEPは、各段階で対策の進捗を評価する。特に、STEP2の終了段階には、保管廃棄物の処分方法を踏まえた検討を行うものである。